

学校名 熊谷市立大麻生中学校
所在地 熊谷市大麻生35-1
電話 048-532-3575

1 本校の概要

本校は、昭和22年に開校し、今年で78年目になる学校である。生徒数145名の小規模校で、校舎内外に緑があふれ、落ち着いた環境の中にある。

学校目標に「誇れる郷土大麻生に学ぶ 埼玉県一の中学生」を掲げ、生徒一人一人が唯一の埼玉県一の夢の実現に向けて励んでいる。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・ その他（図書館補助員との連携）

(2) 実践の概要

国語の時間に図書室で授業を行い、多くの生徒が本に触れる機会を作った。また、図書委員会で図書朝会を行う等、図書室への関心が高まる取り組みを行っている。さらに、図書館補助員によるガイダンスやブックトークを行い、本好きな生徒の育成に努めている。

ア 各学年の国語の授業で

図書室の本を使って、1年生はポップ、2年生は本の帯を作成した。良くできたものは図書室に掲示している。3年生はブックトークを行いクラスのチャンプ本を決めた。後期には調べ学習を行う予定。



【ポップで紹介】



【帯で紹介】



【調べ学習の様子】



イ 図書委員会の活動

毎年11月に図書委員会主催の図書朝会を行っている。今年は全校生徒に図書室のことを知ってもらおうと「クラス対抗〇×クイズ」を行った。正解したクラスには図書委員が手作りのメダルを渡し、数を競った。他にも、図書室に図書委員が選んだ「おすすめの本コーナー」を設置したり、本紹介のポスターを作成したり、学級文庫を運営したりしている。



【図書朝会の様子】

ウ 図書館補助員との連携

図書館補助員と連携して毎年新1年生に向けて図書室ガイダンスを行っている。今年は「授業」をテーマにブックトークも行った。道徳・社会・美術など教科にちなんだ本を数冊紹介し、生徒は普段なじみのない分野にも関心を向けていた。また、調べ学習の際には図書館補助員の協力のもと、市立図書館の団体貸出を利用している。



【図書館補助員によるブックトーク「授業」】

3 成果と今後の課題

(1) 成果

図書室の整備が進み、各学年2回以上は図書室で授業ができるようになった。図書委員会の活動や図書館補助員の協力で、本を借りる生徒が少しずつ増えてきた。

(2) 課題

本校の図書室は4階の一番奥にある。生徒を図書室に呼び込むために様々な工夫をしてきたが、いかに本好きな生徒を育てるかが課題である。

(3) おわりに

読書に親しむ生徒が増えるよう様々な工夫をしながら図書室運営に努めていきたい。